

令和5年4月26日	
資料提供	
担当課	高野町教育委員会
担当者	社会教育係 木本
電話番号	0736-56-3050
メールアドレス	s-kimoto@town.koya.wakayama.jp

『高野町の歴史的建造物』の刊行について

高野町教育委員会で令和元年度～令和4年度にかけて実施した、高野町全域の歴史的建造物の総合的調査成果をまとめた冊子『高野町の歴史的建造物』を令和5年3月31日に発行しました。

世界遺産である壇上伽藍の堂塔や金剛峯寺の本坊をはじめとした高野山の主要な建造物のほか、勸学院（かんがくいん）などこれまで一般には知られていなかった建造物、高野山の周辺を取り巻く集落の民家など、高野町にある歴史的建造物について詳しく知ることができるようになっています。

冊子は、全国の主要図書館や建築史関係の大学研究機関等を中心に配布します。一般販売はありませんが、調査成果を広く活用していただけるよう、全頁をPDFでダウンロードできるようになっています。

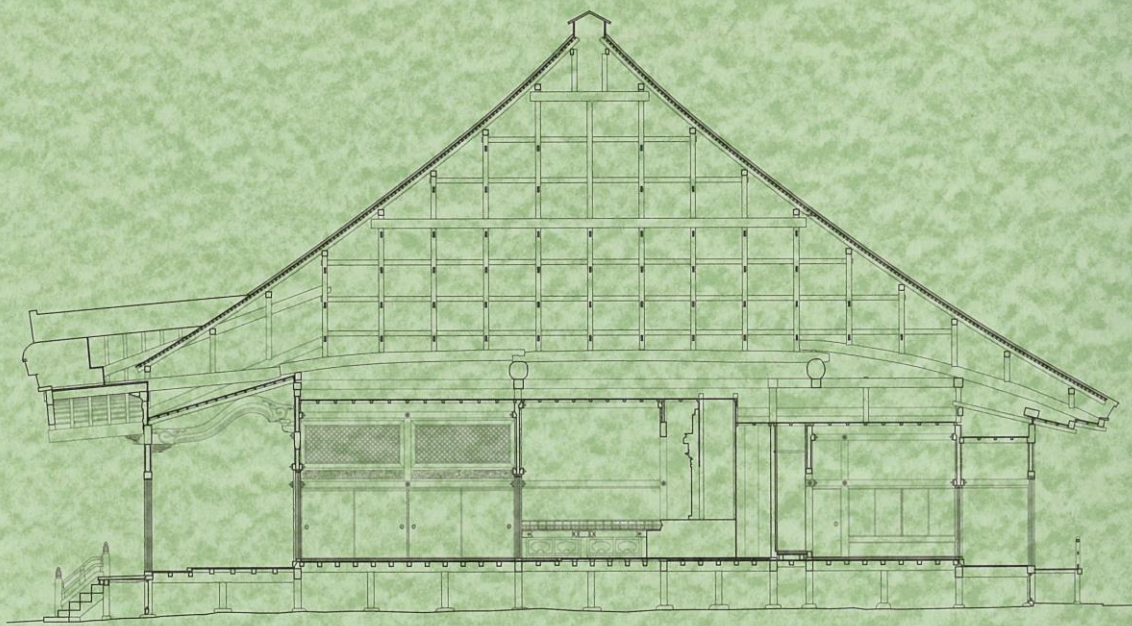
○冊子の情報

書名	『高野町の歴史的建造物』
編集	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
発行	高野町教育委員会
A4版	440頁（図版含む）
発行部数	300部（市販はありません）
配布先	全国の主要図書館及び建築史関係の大学研究機関等
PDF版	全頁ダウンロード可能 奈良文化財研究所 全国遺跡総覧 (https://sitereports.nabunken.go.jp/ja)

主な掲載内容

- 高野町内の歴史的建造物 2754棟についての概要
- 特に高い価値を有する建造物 58棟の詳細調査内容（※既指定重要文化財は除く）

高野町の歴史的建造物



2023年3月
高野町教育委員会

目次

刊行にあたって

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査に至る経緯	1
3 調査の方法	2
4 調査の体制と経過	4
5 報告書の作成	4
第2章 高野町の歴史	6
1 古代・中世の高野山	6
2 近世の高野山	7
3 近代の高野山	9
第3章 各地区の概要	11
1 悉皆調査の概要	11
2 各地区解説	12
第4章 高野山地区の寺院	43
1 本中院谷	43
2 谷上院谷	47
3 西院谷	48
4 南谷	52
5 小田原谷	56
6 往生院谷	59
7 蓮花谷	62
8 千手院谷	66
9 五之室谷	69
10 一心院谷	72
11 奥之院	74
第5章 寺院建築個別解説	86
1 個別調査の概要	86
2 金剛峯寺	87
3 六時鐘楼	145
4 壇上加藍	150
5 勸学院	205
6 徳川家霊台	214
7 金輪塔	220
8 女人堂	229
9 奥之院	240
10 円通寺	259
11 宝城院	259
12 西南院	269
13 常喜院	278
14 不動院	284
15 金剛三昧院	291
16 普賢院	295
17 普門院	302
18 観音堂	310
19 蓮華定院	314
第6章 高野山の寺院建築の特質	327
1 構造・意匠の特質	327
2 虹梁絵様の変遷	333
3 高野山における大工と諸職人の活動	339
4 壇上加藍御影堂・山王院拝殿にみる旧規の継承と展開	345
5 高野山の棟札の特質	351
第7章 総括	357
1 まとめ	357
2 歴史的建造物の保護について	360

図版

高精細写真
史料
棟札・墨書等



図 402 壇上伽藍大空堂頂木



図 404 壇上伽藍大空堂裏飾



図 405 壇上伽藍大空堂向拝下見上付



図 406 壇上伽藍大空堂向拝下見



図 407 壇上伽藍大空堂内陣



図 408 壇上伽藍大空堂棟梁



図 409 壇上伽藍大空堂清御階



図 410 壇上伽藍大空堂入母屋桁組葺き

(13) 愛染堂 (Pl.32-33)

建造形式 和式3間、入母屋造、押木葺、向拝(東)

建造年代 嘉永元年(1820) (推定)

概要 愛染堂は、壇上伽藍東部、大会堂の西に南面して建つ。桁行3間、梁間3間、入母屋造、檜皮葺の建物で、正面中央間に向拝1間を設け、四隅に切目縁をまわす。建武元年(1333)、後醍醐天皇の命令により建立され、愛染明王を祀る。創建以来、永正18年(1521)、寛永7年(1630)、文化6年(1809)、天保14年(1843)の4度、焼失しており、現在の建物は、徳川から嘉永元年(1820)に再建されたことが中心。母屋は徳川家慶で、再建願主は西院寺・徳蔵院妙範と播磨屋・瑞晴寺有智恵運宗、再建願主は宇宿方・中蔵院源阿と行人方・正塔院了範、供養導師が368世傳主と推定される。

平面構成 愛染堂は、准殿堂とほぼ同じ平面構成・構造形式をもつ。桁行・梁間は、ほぼ同規模で、中

央間は2,849mm前後、梁間を2,950mm前後とし、中央間を21柱、梁間を17柱で割り付け、1柱は約134mmとなる。向拝は正面中央間上柱筋を据える。

側まわり 建物は、低い丸石積み基礎の上に建ち、さらに縁に納まる丸石積みの基礎を築き、上面を漆喰地として、礎石を据える。柱は上端部付きの角柱で、下から、切目長押、腰長押、内法長押を打ち、六曜金具の釘巻を打ち、柱上端は頭貫で隅の巾輪を載せ、押宗縁の木鼻を設ける。組物は出組で、中層は内部に彫刻を施した彫刻を置く。柱筋の組物は、東針木を設けず、一手指に東針木を入れたり、通し針木には波文を施した支輪柱を入れる。

縁は、東石上に縁束を立て、縁束を載せ、切目縁の縁束を受ける。高欄は設けていない。

向拝 向拝は、方形の礎石上に礎石を築き、向拝柱は上端に彫り付けた几帳面取角柱で、紅毛彫

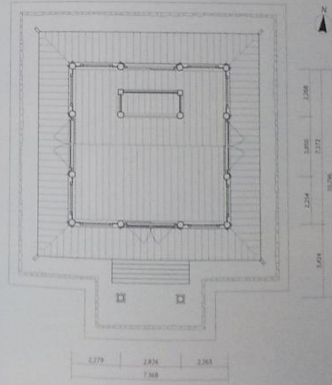


図 491 壇上伽藍愛染堂平面図 1/150